

令和7年（2025年）度 学校経営シラバス

北海道札幌月寒高等学校（定時制）

【校訓】 自主自立 親和協力 【スクール・ミッション】 （１）多様なニーズに対応し、有為な社会人として自立するために必要な資質・能力を身に付けた生徒の育成 （２）集団生活や特別活動等を通じて、コミュニケーション能力や豊かな人間性を身に付けた生徒の育成	【学校教育目標】 （１）確かな自己実現を目指し、主体的に課題を発見・解決しようとする資質・能力を育む。 （２）広い視野と豊かな人間性を持ち、協働的に社会の発展に寄与しようとする態度を育む。 （３）進んで心身を鍛え、粘り強く逞しく生きようとする活力を育む。 【育成を目指す資質・能力】 ＜ 知 識 ・ 技 能 ＞ ○各教科の知識・技能 ○読解力 ＜思考力・判断力・表現力＞ ○想像力 ○創造力 ○論理力 ＜学びに向かう力・人間性＞ ○自律力 ○行動力 ○コミュニケーション力
---	--

領域	対象	中 期 目 標	今年度の目標	目標達成のための評価の観点
教育活動	学習指導	◎学ぶ意欲を喚起するきめ細やかな学習支援・学習指導	○カリキュラム・ポリシーに則った教育課程の編成及び実施 ○「主体的・対話的で深い学び」の実践を通じた自主的な学習態度の育成 ○「令和の日本型教育」に示された個別最適な学びと協働的な学びの実践、及びそれらを支える ICT の有効活用	□卒業後の進路に求められる資質・能力を着実に育成できる教育課程を編成・実施し、グラデュエーション・ポリシーに示された8つの資質・能力を育成しているか □指導と評価の一体化の視点から、観点別評価を適切に実施し、指導方法の工夫・改善に生かすことができたか □教科横断的視点から、総合的な探究の時間を中心に探究的な学びの充実が図られたか □生徒の実態を踏まえ、「主体的・対話的で深い学び」に係るアクティブ・ラーニングの視点からの授業改善を図り、コミュニケーション能力を育成できたか □生徒の実態を踏まえ、個別最適な学びと協働的な学びの実践、及びそれらを支える ICT を効果的に活用できたか
	生徒指導	◎豊かな人間性を育む発達支持的な生徒支援・生徒指導	○基本的な生活習慣の確立及び、集団生活の規律や協調、責任を重んじる態度の育成 ○特別活動や課外活動等を通じた社会性や主体性の育成 ○いじめ撲滅へ向けた取組の徹底	□家庭との連携を図りながら規律ある生活により集団生活の基本を体得させるとともに生徒の自己管理を促し、自立を支援することを通して、基本的な生活習慣を確立できたか □生徒の自主性やコミュニケーション能力を育成するため、ホームルームや生徒会行事等の活性化に取り組んだか □お互いに人格と個性を尊重し支え合い、多様な在り方を相互に認め合える人間関係の形成を通じて、組織的にいじめの未然防止や解消を図るとともに、社会性や規範意識を育成できたか
	進路指導	◎主体的な進路選択と個々の進路実現を目指す進路支援・進路指導	○生徒が主体的に進路実現を目指すよう、早期からの進路指導の実施 ○生徒の能力や適性の的確な把握を踏まえた支援による進路意識の醸成 ○保護者・地域・雇用主・外部支援機関との連携に基づいた最善の進路実現	□4年間を見通した系統的で継続的な指導計画により、「社会人基礎力」の底上げを図り生徒の自立を支援するとともに生徒の進路意識を高められたか □進路面談の実施や進路情報の提供により、生徒一人一人の確かな自己実現を支援したか □生徒・保護者の希望や期待を実現するため、外部機関や家庭とも連携して進路指導を行ったか
	健康安全指導	◎自他の健康と安全を目指す健康支援及び健康・安全指導	○心身の調和のとれた健全な生徒の育成 ○健康的で安全な学習環境の整備及び、情報を活用した、生徒理解の深化 ○家庭や地域、関係機関との連携による交通事故等の防止	□心身ともに健康な生徒を育成するため、健康・安全意識を高める啓発活動を行ったか □外部とも連携した教育相談や生徒理解の取組を充実させ不登校等の早期発見と組織的な支援を行うことができたか □事故防止の観点から、家庭や地域、関係機関との連携を図ったか
学校運営	運営	◎学校課題の共有及び課題解決に向けた協働体制の充実	○PDCA のマネジメントサイクルによる教育活動の改善・充実 ○組織的・機能的な協働体制の充実	□経営方針や教育目標を明示し、各種反省会議や学校評価を適切に行い課題を明確にすることで、教育活動の改善・充実を図ることができたか □責任を明確化しつつ、分掌間・職員間の連携を図り、校内研修会等を効果的に活用し協働して課題解決に取り組むことができたか
	連携	◎保護者、地域、関係機関等との効果的な連携体制の充実	○関係機関との連携による教育活動や諸行事の円滑な運営 ○地域や保護者への教育成果の周知及び普及	□地域や後援会等関係機関との連携を図り、教育活動や諸行事の円滑な運営に努めたか □地域への情報発信や学年からの情報発信の充実など地域に開かれた学校づくりが図られたか
	働き方改革	◎健康でやりがいを持って勤務する合理的・機能的な労働環境	○「北海道アクション・プラン」の推進	□公立学校の教師の勤務時間の上限に関する指針（時間外の上限を「月45時間内、年360時間内とする」）を遵守できたか